

学生もお手伝い 鯉救い隊！

工事に先駆け、2017年12月19日に、A棟前の池に住んでいた鯉を移動するため、「鯉すくい」が行われた。隈本先生指導の下、赤いカープのTシャツを着た隈本ゼミの森田絢子さん、鈴木隼人さん（二人とも当時3年）が一生懸命に鯉を追いかけた。

だが、一番熱心に鯉すくいをしていたのは隈本先生だ。実は、隈本先生は熱心なプロ野球の広島東洋カープファン。Carp（カープ）は英語で鯉という意味。「鯉を大切にしないとカープが優勝できない」と一匹でも多くの鯉を掬おうと網を持ち奮闘していた。

学生たちも負けじと餌でおびき寄せたり、2つの網で追い込む作戦が行われた。しかし、なかなかすくうことができず、悔しそうな表情を浮かべていた。

3時間の奮闘の結果、大きな鯉を6匹掬うことができた。捕獲しきれなかった小さな鯉数匹は、後日隈本ゼミが改めて鯉すくいをを行った。小さな鯉は生物環境問題に興味のある現代社会学科の学生に引き取られ、すべての鯉が「救われ」た。



機能的で快適なキャンパスへ 環境整備事業が始動

キャンパス・リニューアル
第1回レポート

江戸川大学では、2018年2月から環境整備事業が開始されている。全3回に分けての特集第1回

目は、ワーキンググループの一人である隈本邦彦教授にお話を伺った。
（文・写真：増田朱音）

今回の環境整備事業は小口彦太学長が「キャンパスの環境を見直して欲しい」と、2016年に教職員のワーキンググループを立ち上げたことに始まる。1年間かけてキャンパスが抱える問題や課題を洗い出し、機能的で美しく快適なキャンパスを目標に基本計画をまとめ、翌年9月の理事会で承認を得て、2018年工事に着手した。

計画を立てるにあたり一番重要視されたのが、正門の歩車分離だ。現状は、歩行者・自転車・自動車・スクールバスが同じ正門を入りしている。事故が起らないように警備員が交通整理しているが、危険なことには変わりはない。

そこで、大々的に配置を変えることにした。スクールバス停は現在のA棟駐車

場に移動し、歩道と車道を整備して歩行者が安全に歩けるようにする。

スクールバス停があった場所には架橋がある水盤を設置した。水辺の近くには桜の木が植えられ、満開時には水面に映る桜が楽しめるだろう。夏には、涼しげな水辺で、江戸川大学に隣接した保育園に通う子どもたちが遊べる。

その奥には、公園のような円形の芝生の広場ができる。江戸川大学生が自慢できるようなおしゃれな景観になる予定だ。明るく広々とした中庭で学生がくつろぎ、友人と語らう姿が見たい」と隈本先生。

工事は2018年8月に一度終了し、2019年2月に再開する予定だ。次号では詳しく工事の内容についてお伝えする。